

可変的に大島に溶け込む交流拠点施設

おおらかな憩いの空間

島民と観光客それぞれにとっての憩いの場であり、交流の場となる当施設は、海に向かう大屋根のあずまやのような、人々を招き、包み込むおおらかな空間を目指しました。

海に開き人々を招く新たなシンボル

交流スペース上部屋根は、海側への開口を大きくすることによる眺望への配慮と同時に、海やフェリーで訪れる来島者に対して開かれたイメージの形状とするために、海側に登る片流れ屋根としました。

また、シンプルな片流れ屋根でありながら、大きく特異な大屋根の木軸建物とすることは、大島への調和と、来島者をむかえるシンボルとしての両方の機能を実現します。

変化する交流スペース

交流スペースは、季節や時間帯、様々なアクティビティに対応出来るように整形な大空間とし、外周と内部間仕切りともに木製引戸による可変的なプランニングとしました。

季節や時間帯に応じて様々に様相を替えるこの施設では、常に大島の自然や空気、時間と一体的な空間が形成されます。大島に溶け込むこの施設は、多くの人々に、大島とのより濃密な触れ合いを提供します。

例えば、中間期には、大きく開いたオープンテラスが待合室となります。夏季や冬季には、木製構成材に包まれたあたたかみのある交流スペースが形成されます。イベント時には、海に向かう大舞台として、3周が開放されます。

言わば、海を臨むあずまやからガラス帳壁による密閉空間までを段階的に変化する空間が形成されます。



■外観

外装仕上げは、自然豊かな大島の風景との調和に配慮し、深い色味の木材仕上げを基調としています。

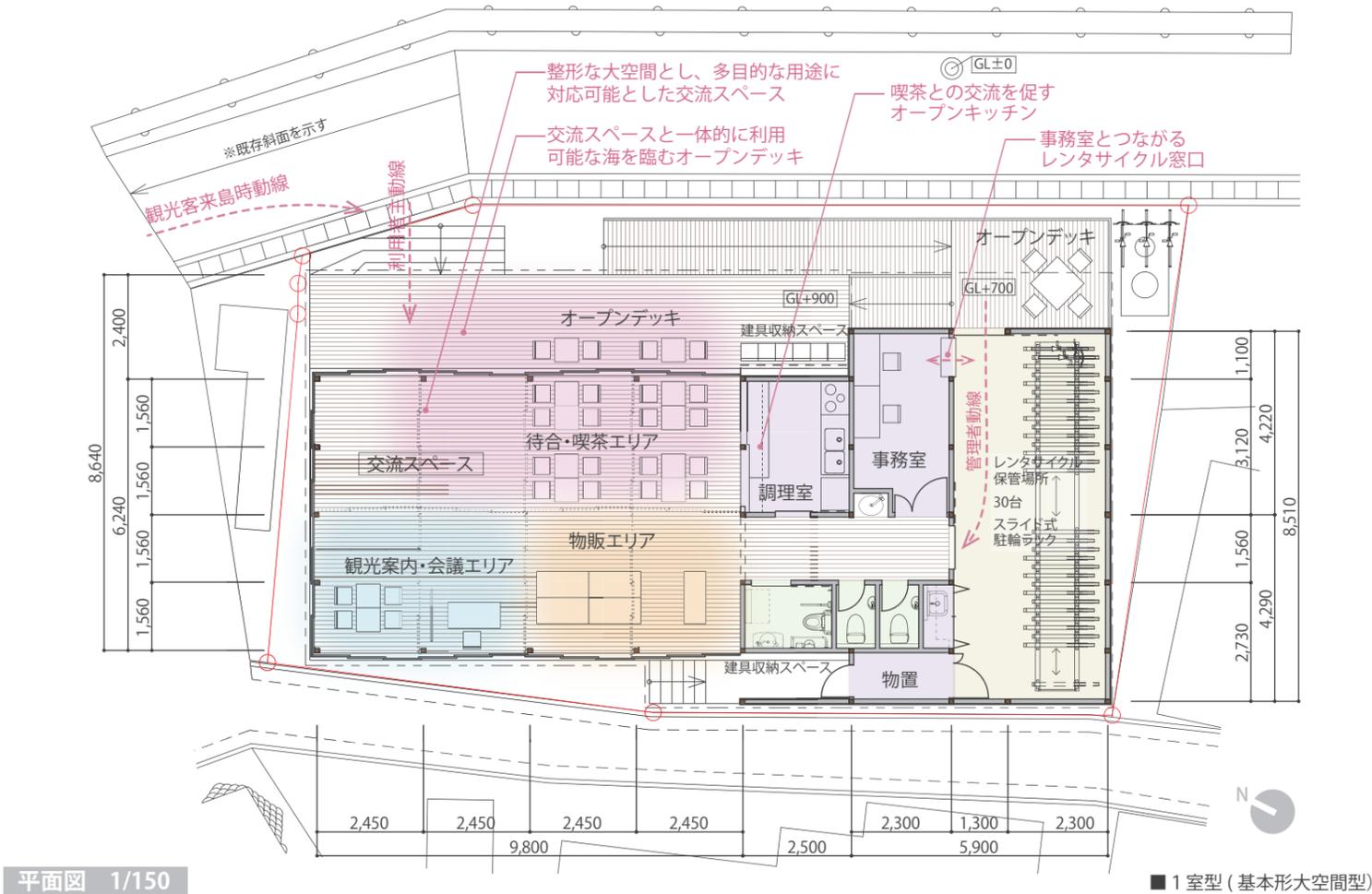
交流スペース廻りの3周と内部の木製建具は、開放的で機能的なオープンデッキを可変的に創出し、様々な様相を形成します。



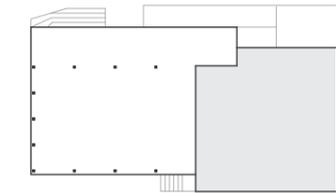
■内観

木架構は隠さず、見せる計画とし、大島の自然と調和したあたたかみのある空間としています。各木構成材は、外観とは対照的に明るい仕上げとすることで、明るく快適な内部空間としました。

交流スペースやオープンデッキは、海に広く面する計画とし、海への眺望に配慮しています。



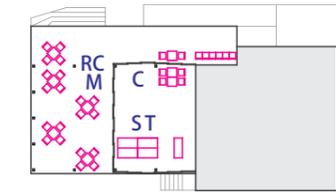
■交流スペースの使い方バリエーション



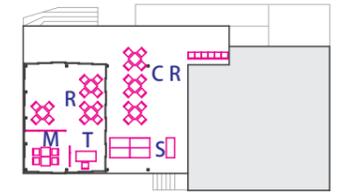
■3周開放大舞台型 (イベント時)



■2室型 (大島PR展示会時)



■テラス+1室型



■テラス+1室型 (はなれ型)



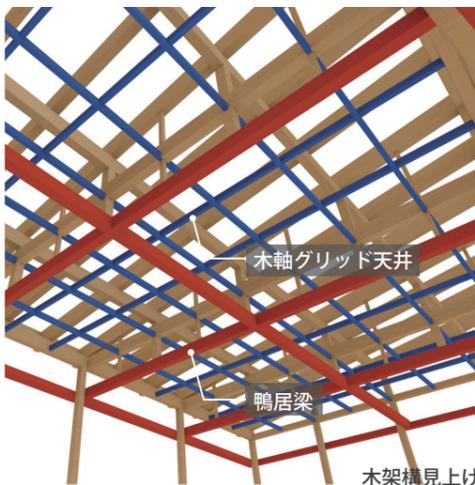
■多分室型 V1



■多分室型 V2

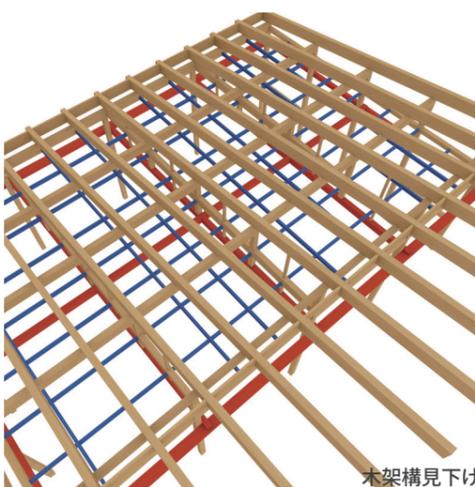
凡例

R: 乗船待合所、休憩スペース T: 島内案内所 M: 交流・会議スペース
S: 特産品売り場 C: 喫茶 G: ギャラリー



■鴨居梁

交流スペースの外周と内部を8分割するように設けた鴨居梁は、可変性の高い間仕切り空間を実現します。さらにそれらは、木軸構造の水平力を負担し、垂直材の断面寸法をおさえ、海への眺望配慮に寄与します。



■木軸グリッド天井

木軸グリッド天井は、美しい木架構で形成する屋根裏の可視化を損なわずに、可変的な設備計画を実現します。さらに、観光案内や大島の写真等のPR資料を貼り付ける展示板や間仕切り板を吊り下げることによって、より可変的な内部空間の実現に寄与します。